

大阪市大生活科学  
灘神戸生協  
JR西日本北浦かほる  
○鈴木 洋子  
渋谷 陽子

<目的> 本研究は、台所におけるゴミ容器の扱い方を左右する要因の一つとして、厨芥処理の考え方や生活習慣などから、主婦の環境意識との関連を考察する。

<調査の概要> その1のアンケート①の調査項目で、主婦の環境意識を把握するものとして、厨芥処理の重視項目、理想像、ストレーナーの考え方について尋ねた。また、意識と行動との関連を探るため、ゴミ・水・資源に関する生活習慣について親子に質問した。

<結果と考察> ①厨芥処理の重視項目は、清潔さを第一優先とする人が73%。生ゴミもシンク内にゴミ容器を置き、こまめに処理するのを理想とする人が67%を占める。この清潔さ志向は、厨芥処理の理想として「ゴミ輸送システム」14%、「マイクロ波処理」22%につながっている。②家庭でできる生活排水対策として、ストレーナーに厨芥をためないという指導がされている。今調査では156人がストレーナー付きの流しで、うち27%がその中にゴミをためていた。また、ストレーナーの大きさは85%が適当とし、ゴミ受けとしての是非を問う設問も現状肯定が64%と問題意識は低かった。③親の環境意識では、「食べない食品の廃棄」「ペーパーの使用」「回収のためのゴミ保管」などの項目で、意識の低い回答が40%と目立った。他は、概して意識が高かった。特に「家族の家事参加と、環境教育」には90%が高い意識を示した。また、子供の生活行動を見ると「分別への配慮」「ペーパーや洗剤使用量の配慮」などの項目で50%は親からの伝達がなされていなかった。④環境負荷の大きい、卵液・てんぷら油・ツナ缶油の処理方法と、主婦の意識度・ストレーナー使用状況との相関を見ると、卵液・ツナ缶油に対する意識の低いことがわかった。